

# 見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

December 2025 vol.140

December						
S	M	T	W	T	F	S
		1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

## ◆東禅寺（遭難之碑）

所在地：三重県尾鷲市賀田町

交通：JR紀勢本線「賀田」駅北約700m

三重県尾鷲市の賀田町は、入り江に迫った山肌に広がる町で、津波により入ってきた水が集まりやすい地形になっており、南海トラフで地震が発生するたびに大きな津波に見舞われています。昭和19(1944)年の昭和東南海地震では、地震後20分で高さ6mの津波が襲い、181戸の家屋が流失し、21名が犠牲となる被害が発生しました。『昭和地震誌 南輪内村震災記念』（倉本為一郎編著、<https://www.city.owase.lg.jp/0000008105.html>）には、体験者の証言などをもとに、昭和東南海地震の際の様子が詳細に記録されています。また、南海トラフ巨大地震の被害想定では、賀田町に最大17mの津波が到達するとされています。

こうしたことから、賀田町では津波への意識づけの様々な工夫が行われています。ひとつは、自主防災会の取組です。東日本大震災を受け、住民が避難する際の目安として、津波避難路を中心に、町内43か所に海拔を示す表示が設置されました。また、夜間に避難する場合のことを考え、避難の目安となる想定浸水深より高い標高位置にはライトが設置されています。このライトは、停電しても稼働するように、昼間、太陽光で蓄電するLEDライトになっています。さらには、住民の避難が円滑に進むよう、徒歩専用の避難路、車専用の避難路をあらかじめ決めており、ここにも避難の目安となるLEDライトが設置されています。

もうひとつは、子どもたちに対する取組です。町内にある輪内中学校は、南海トラフ地震で最大8mの浸水が想定

されており、校舎の3階に裏山へと通じる橋が設置され、地震発生時にはこの橋を渡って、海拔約40mの高台に避難することとされています。中学校では避難への意識づけのために、授業中に突然、南海トラフ地震が襲う状況などを想定し、生徒が橋を渡り高台に避難する避難訓練が、年に4回ほど、抜き打ちで行われています。

賀田町の東禅寺にある遭難之碑は、昭和東南海地震で犠牲になった方を慰霊するために昭和48(1973)年に建立されたもので、入り江を見下ろす位置に、町を見守るように建てられています。東禅寺は標高約20mで、昭和東南海地震の際にも多くの方が避難され、現在も地区の避難所になっています。また、昭和東南海地震の遭難之碑と並んで、流出家屋26戸、死者12人の被害が発生した、昭和46(1971)年の豪雨災害の犠牲者を慰霊した遭難之碑も建立されています。

東禅寺へ登る道の石垣の上には、嘉永7(1854)年の安政東海地震の津波の水位を記録した石碑も建てられており、こうした慰霊碑や過去の災害を記録した碑も、防災に対する意識づけに一役買っています。



(上) 遭難之碑  
(下) 安政津波潮位点の碑  
写真提供 (2枚共)：  
(一社) 中部地域づくり協会



災とSeeing (23) 昭和東南海地震

([http://www.cck-chubusaigai.jp/sai\\_seeing/detail\\_23.html](http://www.cck-chubusaigai.jp/sai_seeing/detail_23.html)) もぜひ併せてご覧ください。



◆災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



## ◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

### ● 光照院 (vol.72,2020.4)

所在地：半田市東本町

交通：JR 武豊線「半田」駅 北東 約 500m

昭和 19(1944) 年の昭和東南海地震で、半田では中島飛行機山方工場を始めとした軍需工場において動員学徒が数多く犠牲となっています。雁宿公園には、犠牲となった半田市内の 48 名の動員学徒を追悼するために、同級生らによって建立された「追憶之碑」があります。

雁宿公園の追憶之碑には、これと同時に作られた常滑焼の「おほなる観音」という十一面観音像が存在します。おほなる観音は、常滑市の陶製仏像作家・柴山清風により造られたもので、中島飛行機山方工場のあった場所の土を混ぜ合わせて作られた高さ約 60cm の観音像は、追憶之碑とともに犠牲者を慰霊するものとして、光照院に納められました（現在は通常は非公開）。追憶之碑も、もとは光照院

の本堂の横に建てられていましたが、平成 6(1994) 年に現在の地の雁宿公園に移されています。

ところで、柴山清風は、高さ 20cm ほどの救世観音・夢殿観音像を千体を目指して造り、全国を無償で配布して回った人物で、東大寺からの受領書も残されています。そのほかにも、熱海市の「興亜観音」(高さ 3.3m)、常滑市にあった「護国観音」(高さ 2m)、さらには出征兵士やその家族の求めにより制作された高さ 3cm 程度の「弾除け観音」など、数多くの作品を世に残しています。

弥富市の鍋田神明社の「伊勢湾台風殉難者慰霊観音」も同じく清風の手によるもので、おほなる観音と同様、犠牲者ゆかりの地の土を混ぜて制作されています。



◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.72 (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

## ★ ハラソ祭り

ハラソ祭りは、江戸時代に盛んだった鯨漁を伝える祭りで、毎年 1 月に梶賀町の梶賀漁港(位置は表面参照)で開催されます。(2026 年は 1 月 13 日(火))

当日は梶賀の地藏寺でご祈祷が行われた後、お昼前には、大漁旗を後ろにつけた和船「ハラソ船」が、地元の男衆と希望者を乗せて漁港を出発し、曾根町の飛鳥神社へ参拝に向かいます。鯨法の奉納後、男衆は赤や白の衣装に着替え、顔全体に白く化粧を施し、くまどりのような模様をつけ、再び梶賀漁港に戻ります。戻る途中には「ハラソ！ハラソ！」のかけ声とともに銚子で鯨を射止める「古式鯨法」の様子が繰返されます。その後、お昼過ぎには梶賀漁港に帰港し、午後 2 時頃からは祝いの餅まきが行われます。当日は、魚ごはんやぜんざいなどのふるまいも行われます。



観光三重 HP より

### ～自動車で巡る～

熊野尾鷲道路は、尾鷲市坂場西町の尾鷲北 IC から南へ熊野市大泊町の熊野大泊 IC までを結ぶ、延長 24km の自動車専用道路です。尾鷲市と熊野市を結ぶ国道 42 号、国道 311 号は山あいを通るため、災害時に代替路線として機能する高規格幹線道路として整備されました。現在では、熊野大泊 IC から近畿自動車道紀勢線、伊勢自動車道を経由して、名古屋西 JCT までの約 170km が自動車専用道路で結ばれています。

### ●ブレイクタイム●

#### ♪ 梶賀のあぶり

梶賀のあぶりは、梶賀町に 100 年以上も前から伝わる郷土料理で、とれたての小魚を薪を燃やした煙でいぶして作ります。浜に打ち捨てられた小魚を、漁師が家庭でのおかずとするために燻製にしたことが始まりとされ、もともとは 4～7 月頃の季節限定の食べ物でしたが、釣り人や町外からの訪問者によりそのおいしさが伝わり、近年は、尾鷲地域の特産品としても販売されています。尾鷲市の漁港の中でも梶賀漁港でのみ作られていたことから、梶賀のあぶりの名で親しまれるようになりました。



尾鷲市 HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、[gensaisan2014@gmail.com](mailto:gensaisan2014@gmail.com) まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災と Seeing』のホームページ (<https://www.saitoseeing2020.jp/>) をぜひご覧ください。

(発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター 2025 年 12 月)

